

## 大阪・道頓堀川と堀川

11月8日から10日まで毎日新聞「おはよう名古屋」欄に3回にわたり連載された「よみがえれ堀川」は、大阪・道頓堀川の取り組みから名古屋・堀川の浄化策を考えるもので興味深かった。



写真は大阪・ミナミの繁華街を東西にながれる道頓堀川を10月中頃に撮ったものだ。大阪市は10数年前から水門などを設置して水質浄化につとめ、両岸に遊歩道を設置した。戎橋から太左衛門橋までの約170㍍にわたり整備した「とんぼりリバーウォーク」である。道頓堀の見所を20分ほどで案内する遊覧船も出ている。先の記事も「川と一体となったまちづくりが、大阪・ミナミの繁華街を親水空間に変えた」と述べている。



昔から大阪の道頓堀界隈が大好きだった。大学院「浪人時代」から古本屋めぐりのあと、戎橋から当時は汚れた川を眺めたものだ。それが今では川岸を歩くことができ、水に親しめるようになった。写真のように、橋から川を眺めたり、リバーウォークを歩いたり腰掛けている多くの人を見かけた。道頓堀筋の人ごみの喧騒と違って、ここでは落ち着いた心地よい気分がひたれる。

道頓堀川と同じく、名古屋の堀川も都心を流れる貴重な川だ。水質浄化などの取り組みが行政と住民団体により進められているが、「よみがえれ堀川」にエールを送りたい。

(2007年11月26日 記)